



Carl Zeissの技術を あなたの分光分析アプリケーションに。

装置購入後、
すぐに測定!!

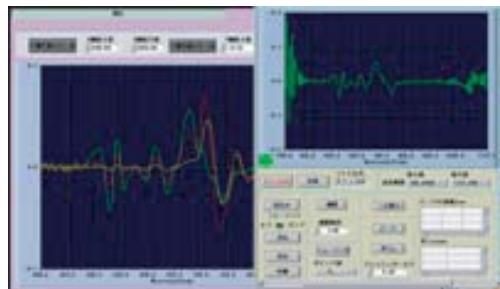
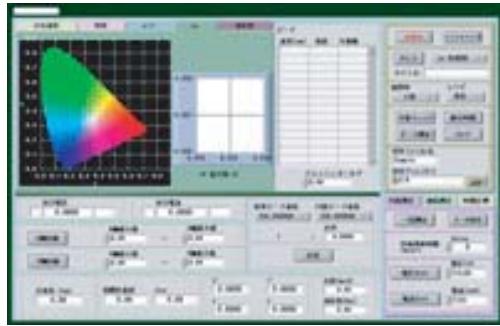
S/N比は
5000:1
A/D16bit



Carl Zeiss社製分光器内蔵分光装置
ハンディ・ラムダII

Handy Lambda II	310～1100nm対象
Handy Lambda II UV-VIS	190～720nm対象
Handy Lambda II UV-VIS2	250～785nm対象
Handy Lambda II UV	190～400nm対象

Handy
Lambda



▲表示例

専用ソフトウェアは
わかりやすい日本語表記



Carl Zeiss社製分光器モジュール

◆装置組込でモジュールとして使用の場合◆



■超小型分光器 MMS

MMS 1	310～1100nm対象
MMS UV-VIS	190～720nm対象
MMS UV	190～400nm対象

■近赤外小型分光器 PGS

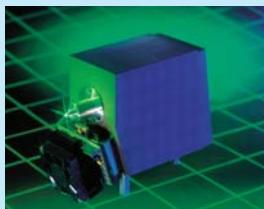
PGS NIR 1.7t1	960～1690nm対象
PGS NIR 2.2t2	1000～2150nm対象

■高分解能分光器 MCS

MCS UV-NIR	190～1015nm対象
MCS UV	200～620nm対象
MCS UV-VIS	300～720nm対象
MCS VIS	360～780nm対象
MCS NIR	680～1100nm対象

■二次元裏面入射CCD 高感度高分解能分光器 MCS CCD

MCS CCD UV	200～600nm対象
MCS CCD UV-NIR	200～980nm対象



株式会社 スペクトラ・コーポ

◎小型分光器の分解能って、何…?

最近、各種小型分光装置の購入を検討している…あるいは購入済みのお客様から、このご質問を多数お受けします。

一般的に、各メーカー・商社が挙げる分解能は、検出スペクトルの半値全幅を指しています。

レーザー光やプラズマ光などのバンド幅が狭い対象においては、波長に対しての高分解能は必要です。

ですが、感度が要求される**分光分析**においては、波長分解能よりも**高感度**、そして**細分化されたS/N比**の方が重要です。

弊社取扱いの、独・Carl Zeiss社製分光器モジュールは、分光分析において多くの支持をいただき、その高感度性により、オフライン測定から現場オンライン測定まで、幅広い分野で活躍しております。

◎高感度・高いS/N比(5000:1)を誇る理由



1 使用内蔵検出素子それぞれに、独立したプリアンプ回路がついており、高い光電変換効率を確保。

浜松ホトニクス社製
フォトダイオードアレイ採用

2 内蔵グレーティングが
収差補正タイプなので、
広い範囲での検出精度が安定。

イオンエッティングによる
収差補正タイプ
凹面グレーティング採用

3 検出素子に直にコーティングされた
二次光カットフィルター。
測定した光を無駄なく検出。

Carl Zeiss社コーティング
部門でのPDA二次光カット
フィルターコート

4 対紫外領域での熱膨張による
測定値変化を防止するため、チタンボディ、
またはセラミックボディを採用。

特にチタンボディ内は
一部真空状態に

5 入射ファイバーで取り入れた光は、すべて
分光器内に取り入れる構造。ファイバー素
線(70μm径×30本)はスリット状に並べて
あり、グレーティングを介してもサイズはそ
のまま。内蔵検出素子に対して1:1で結像。

入射ファイバーは
クロスセクション状に配列。